

令和 7 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立板城小学校

校 長 名 空本 秀寿

1 研究主題等について

(1) 研究主題

「主体的に自分を表現する児童の育成」
～多様な表現方法を取り入れた学びの場の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、主体的に自分を表現する児童育成に向けて、多様な表現方法を取り入れた学習場面を工夫する授業研究を、多教科多領域で行った。まず、表現方法の一つである ICT 利活用力育成のため、実践をふまえた教員研修の充実を図った。「板城小 ICT 活用体系表」を作成及び実践することで、学年段階に応じた指導のもと取り組むことができた。その結果、普段からねらいに沿って ICT を活用するなど教員の意識が高まり、児童の活用スキルが向上した。次に、「話す力」「聞く力」「話し合う力」を高めるため、ペアトークやグループトーク、クラストークの取組を、授業のねらいに沿った話し合い活動などに反映することができた。児童の様子から、対話を通じて自分の考えや意見を確かなものにしようとする姿が見られてきた。

一方で、以下の 2 点について課題が明らかになった。1 点目は、表現力の素地育成についてである。ICT 利活用は、一昨年度と比べて大幅に向上したものの、活用の素地であるタイピング能力は目標値に達しなかった。また、クラストークの実践は、10 分間の帯タイムでの実践に困難さを感じるとともに、クラストークができる力を育てるためには、低学年ではペアトークやグループトークの充実を図る必要性が明らかになった。2 点目は、質の高い授業づくりについてである。児童の表現力向上に向けて教科及び領域を広げた授業研究では、教員が同じ教科で協議できる場が少ないという意見が挙がった。教員アンケートの結果から、若手教員の多くは指導技術の向上に課題があると答えている。また、全体を通して、各教員の実践を、自分の実践に繋げられる取組にしたいと望んでいることが分かった。

そこで本年度は、国語科及び算数科における多様な表現方法を取り入れた学びの場を設定し、児童がその表現方法を活用して、他者との対話を通して学びを深める実践を進めていく。その表現方法の一つとして、昨年度作成した「板城小 ICT 活用体系表」をもとに実践を進めていき、基盤となる児童の ICT 活用スキルの向上を図る。また、教員集団の特長を生かして、指導技術のノウハウや、ICT を活用した指導スキルなど、教員同士が学び合う協働的な研修に取り組む。授業の中で、児童が自分の思いや考えを伝え合える効果的な表現方法を探り、さらなる児童の表現力育成を目指していきたい。

〈研究仮説〉

国語科及び算数科において、多様な表現方法を取り入れた場を設定し、個別学習の場において児童一人ひとりが理解を深めたり、協働学習の場で自分の考えを共有したりすれば、主体的に自分を表現する力が高まるであろう。

(3) 研究内容

- ICT を使った対話を深めるための教材開発及び教材活用に関わる研究
- 指導の場におけるタブレット端末活用方法の研究
- 教師の指導力向上に関わる研究
- 児童、教師の意識向上に関わる研究

2 検証計画

検証の視点と方法

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
① 思考力・判断力・表現力の育成	単元末テスト	単元末テスト 思考・判断・表現 項目	正答率 70% 以上の児童 の割合 80% 以上
② 児童の意識調査(I C T活用) における肯定的評価の向上	アンケート	児童アンケート	肯定的評価 80%以上
③ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の構築	アンケート	教師の相互評価 (4 段階評価)	肯定的評価 平均 3 以上
④ ICT 活用力の向上	市内タイピング大会結果	第 1 回と第 3 回 の結果の変容 (第 4 学年以上)	合格基準を クリアした 児童の割合 80%以上

3 校内研修計画

PLAN 本年度の研究の方向性の決定		
	4 月 5 月	研究組織決定、研究計画 実態把握のためのアンケート作成及び実態調査項目 検討 実態調査や意識調査の実施及び結果分析 研究推進計画
D0 研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施		
	6 月～7 月 8 月 9 月～10 月	理論研修（教科研究、特別支援教育） 学習指導案検討 指導力向上研修 学習指導案検討及び授業実践 I 期
CHECK 前期達成目標		
ACTION 授業提案をもとに、より効果的な指導内容や指導方法、評価計画を 検討		
	10 月～11 月	学習指導案検討及び授業実践 II 期
D0 研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施		
	11 月～12 月 12 月～1 月 1 月～3 月	実態調査や意識調査の実施及び結果分析 研究の成果・課題のまとめ 研究紀要作成
CHECK 後期達成目標		
ACTION 検証計画に基づいた結果分析・来年度の計画		

4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	
公開内容等	(指定校・推進校等の名称、教科・領域等)